

# ちばの地域福祉

## 新しい年を迎えて

千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

会長 中塚 博勝

新年のお慶びを申し上げます。

皆様におかれましては幸多き一年でありますようお願いいたします。

日頃より中核地域生活支援センターの事業に多大なご理解とご支援を賜っておりますことに心より感謝申し上げます。

中核地域生活支援センター（以下中核センターと略す）事業は12年目を迎えました。寄せられる相談の内容は時代を反映して移り変わっていることを実感させられています。高齢化時代に係る様々な課題（生活困難・家族との疎遠・孤立・病弱や認知症等）単親家庭の生活困難と子どもの貧困、複合的課題（生活上の輻輳する問題）を抱えた家庭、触法者の出所後の生活支援、長期にわたる引きこもり状態にある方や発達障害児・者への支援など対象が拡大してきています。

私どもはこうしたいわゆる困難事例に向き合って、一人ひとりに寄り添いながら支援をさせていただいています。こうした姿勢の拠って立つところは、中核センター事業実施要綱に記された「子ども、障害者、高齢者等誰もが、ありのままにその人らしく地域で暮らすことができる地域社会を実現する（以下省略）」基本的な理念にあります。

ところで、皆様すでにご案内のように、本年4月から「障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）」が施行されます。

この法律は、2006年に国連で「障害者権利条約」が採択されたことを受けて、わが国でも関連する法制度の整備がなされ、2013年6月に制定されたものです。

障害者権利条約は、これまで障がい者に対する法は、リハビリテーションや福祉の観点から考えられることが多かったものが、「国際人権法」に基づいて人権の視点から考えて作られたものと言われています。そのうちのいくつかを取り上げ以下に記しました。

### 第12条「法律の前にひとしく認められる権利」

「障がい者がすべての場所において法律の前に人として認められる権利を有することを確認する」

### 第10条「生命に対する権利」

「生命の固有の権利を認めること、差別したり権利を侵害してはならないこと」

### 第2条「合理的配慮」

あえてこれを最後に記したのは、私たちが日常の支援を行っていくとき常に心に留めておかなければならないことと考えたからです。対人援助に携わる私たち一人ひとりがこの新しい法律の内容を理解して、より良い支援を実践していかなければならないと念じています。

本年も変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# ちから ちばの福祉力・社会資源

## NPO 法人 千葉家連

特定非営利活動法人 千葉県精神障害者家族会連合会

理事長 貫井信夫

昭和48年（1973年）に、当会の前身である千葉県精神障害者家族会連合会が、精神医療の改善と精神衛生思想の向上を目指して、病院を中心とした10家族会が結集し、設立されました。現在は、県内40家族会・会員数1200名で活動しております。

この間、少しずつですが、医療・福祉の改善が図られ、社会資源もそれなりに整備され、当事者が地域で暮らすことが当たり前のような社会的風潮がやっとうきつつあります。

しかしながら、依然として精神病への偏見や差別は根強いものがあり、私たちの周りをみても、当事者・家族が、世間からそっと身をひそめて暮らしている様子や、思い余って、死傷事故に至るような悲惨な事件が後を断ちません。

当会は、この偏見・差別の解消を目指した啓発や働きかけを最重要課題として、併せて、家族の支え合い、学び合いを3本柱として活動を行っております。

恒例の‘障害者週間の集い’の行事では、今年度は、児童精神科医の夏苺郁子先生をお招きして、「家族・当事者・精神科医の『三位一体』の立場からお伝えしたい事」につきご講演を頂き、その後のシンポジウムでは、「家族が望む精神科治療！」につき、家族の生の声を発表して頂き、大きな反響をえました。

また、今年度の大きな活動として、上部団体の全国精神保健福祉会連合会（通称：みんなねっと）と連携し、28年5月の国会請願にむけて、JR等の運賃割引の署名活動を展開しており、各団体にも広く呼びかけているところです。

併せて、精神科以外の医療費助成の実現に向け、千葉県・市町への働きかけを積極的に進める所存です。皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い致します。



12/8 夏苺先生と家族シンポジスト

# ちば・元気印！～こんなひとたち、見つけた～

## 自立援助ホーム「坂梨ホーム」(市川市)

ホーム長 橋本由佳さんにお話を伺いました。

市川市の中でも自然が多く残る北国分駅から徒歩10分の場所に2015年10月、自立援助ホーム「坂梨ホーム」が開設された。自立援助ホームとは、義務教育を終えた15歳から20歳までの家庭がなかったり、家庭にいられない子どもたちが、自立の準備をする家だ。

坂梨ホームは、東京都江戸川区で医師をしていた坂梨さんというご婦人が週末診療所にしていた家を寄贈された。檜のお風呂や真っ赤なダイニングキッチン。なかなかお目にかかれない豪邸だ。そんな坂梨ホームのホーム長、橋本由佳さんにお話を伺った。

橋本さんは大学で法学を学びながら、少年院を出院した経験をもつ大学教授先生と出会い、少年院でのボランティア経験を経て、大学卒業後は国立武蔵野学院児童自立支援専門員養成所に入学。それから10年以上、千葉県の公務員として児童自立支援施設で働く。その中で橋本さんがこの坂梨ホームを立ち上げるいくつかのキッカケがあった。

橋本さんは、施設を卒業し社会復帰した子どもたちの中で、卒業生が亡くなる体験をしている。交通事故や病気ではなく自死だった。施設の中でたくさんの大人に励まされ、自分のことを内省し、再び社会や家族に希望をもって復帰するが、社会は厳しい。「普通になりたかった」彼らの言葉がずっと胸に残っていた。最近、やっとその時の事を人前で話せるようになった。彼女は言う、「社会に求められるように適応しないと生きづらい。彼ら、彼女ら1人ひとりが生きやすい社会を創りたい」

ちょうど彼の死を知ったと同時期に、市川でこの自立援助ホームを作る話を聞いた。今までもずっとやりたいと思っていたけど、実際に県の職員を辞めてどこか別の場所へ飛び出す事はなかった。でもこの話を聞いた時「もしかしたら彼が導いてくれているのかもしれない、今やらないと！」とあって千葉県の職員は辞めたんです。

今、坂梨ホームに住んでいるのは2人の10代の女の子。橋本さんは児童自立支援施設でもやっていた畑作りなど園芸療法を取り入れた活動も行っている。卒業生たちがホームの改装を手伝ってくれたり、自分の家族を連れて訪問して当時の思い出を話しているそうだ。施設でも、ホームでも「あったかいご飯・あったかい食卓」をモットーに子どもたちの第2の故郷となろうと奮闘している。

常勤の職員はたったの2人。夜勤も多く、職員全員で集まって会議をする時間も取れない事が今の課題だ。丁寧なコミュニケーションを職員同士が取る事が必須の仕事。まだまだ始まったばかりの援助ホームの運営は、わからない事ばかり。「この街に全然詳しくないのに、毎日人から道を聞かれる気分」ともう一人の職員の人はいう。市川という地域で10代の若者たちが安心して暮らせるように、中核センターでは、地域資源に適切なタイミングで繋げるよう、ホームの職員が孤立しないように定期的に訪問し、今後を見守りたい。





# ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

## 千葉県とNPOとの協働事業

### 2015年度 ノーマライゼーション学校支援事業

- 【日 時】**平成28年1月30日(土)  
第3回13:00～15:00 第4回15:15～17:15
- 【会 場】**千葉市ビジネス支援センター 1～3会議室(きぼーる13階)
- 【内 容】**第3回「発達障害のある子の安心できる関係づくりⅠ小学校通級指導教室」  
第4回「発達障害のある子の安心できる関係づくりⅡ中学校通級指導教室」
- 【申込み等お問い合わせ先】** **【申込締切】**平成28年1月25日(月)  
ちばMDエコネット事務局(コミュニティカフェひなたぼっこ 内)  
※水曜、日曜定休。平成27年12月26日～平成28年1月6日は年末年始休業  
TEL・FAX:047-426-8825 Eメール:[sun@mdeconet.jp](mailto:sun@mdeconet.jp)

## 第2回千葉県児童家庭支援センター大会

- 【日 時】**平成28年2月5日(金)13:00～16:30(受付開始12:30)
- 【会 場】**千葉市生涯学習センター ホール(2F) 住所:千葉市中央区弁天3丁目7番
- 【内 容】**主題:保護者が精神疾患を抱える家庭の支援  
～機関連携と児童家庭支援センターの役割～  
基調講演「保護者が精神疾患を抱える家庭の支援」  
講師 プルスアルハ 医師 北野陽子氏/看護師 細尾ちあき氏  
パネルディスカッション「連携支援の現状と地域の課題」
- 【申込み等お問い合わせ先】** **【参加費】**無料  
児童家庭支援センター・旭ヶ丘 ※参加申込必要  
TEL:043-214-8633 Eメール:[ja-asahigaoka@c-bethany-home.com](mailto:ja-asahigaoka@c-bethany-home.com)

## 映画上映会・講演会

- 【日 時】**平成28年2月11日(木・祝)  
13:00(開場) 13:30(開演) 16:30(終了予定)
- 【会 場】**千葉市文化センター アートホール
- 【映 画】**『ふるさとをください』  
監督:富永憲治 脚本:ジェームス三木 音楽:小六禮次郎
- この映画はきょうされん結成30周年記念映画として制作されたもので、「障害のある人たちが地域の中で働き、生活していくことの意義や大切さを分りやすく市民に伝える」というテーマにしています。
- 【講 演】**『障害者と私～これまでの道、これからの夢～』講演者:ジェームス三木
- 【入場料】**一般1000円 障害者・高校生以下600円
- 【お問い合わせ先】** きょうされん千葉支部事務局  
TEL:043-206-7101 FAX:043-207-7153

発行元:千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会 代表者:中塚博勝

事務局:夷隅ひなた(夷隅圏域) いすみ市大原8927-2 TEL:0470-60-9123 FAX:0470-60-9124

編集:君津ふくしネット(君津圏域) 富津市青木2-16-14 TEL:0439-27-1482 FAX:0439-88-1481

※内容についてのお問い合わせは、君津ふくしネット(担当:玉手)までお願いします。